

高松市生涯学習センター 生涯学習カレッジ（社会生活に役立つ講座）

「体験してみよう！はじめての手話」を開催しました。

令和3年2月10日（水）・17日（水）、香川県聴覚障害者福祉センターの太田 裕之さん、藤井 真作憲さんを講師に迎え、「体験してみよう！はじめての手話（全2回）」を開催しました。

2月10日、1回目の講座では、聞こえない人のコミュニケーション方法についてお話がありました。「手話」「筆談」「読話」「発音」「補聴器」「手話通訳」「要約筆記・パソコン文字通訳」「指文字」のほかに、身振り、表情、指差しも大切なコミュニケーションだそうです。また、スマホにもコミュニケーション支援のアプリがあるそうです。



最初に手や腕の準備運動のストレッチで体をほぐし、いよいよ手話の実践です。まず、「おはよう」「こんにちは」「よろしくお祈いします」「ありがとう」などの挨拶。

次に、指文字です。あいうえおの五十音を指で表します。「コーヒー」「キャップ」「バス」「ビール」などの単語で練習した後、自分の名前の練習です。「た・か・ま・つ・は・な・こ」のようにひとつずつ指文字で表します。名前の表し方は「指文字」「空書」「手話」の3つの方法があります。最後は数字です。日本の数字は、そろばんが基本になっているようで、年齢を伝えるにはあごの下



で。月日を伝えるときは、上側で月を、下側で日を表します。

2月17日、前回の復習の後、いろいろな表現を習いました。物の形から「山」「木」。物の動きから「本」「バナナ」。漢字の形から「田」「中」「川」。物の特徴や関わり方の違いで表現する方法もあります。例えば、鉛筆はなめて書く。ボールペンは1回カチッと押す。シャープペンシルは数回カチッカチッと押す。筆は習字の様子で表すなどです。

手話のポイントは、物事をよく見て真似をすることに加えて、普段の生活の中で使っている身振りや表情がコミュニケーションの大切な要素です。同じ動きでも表情や強弱、スピードを変えることで、気持ちや意思の違いが表現できます。

最後に、家族の紹介、趣味や仕事、住所を伝える方法を習いました。

「手話」表現で大切なことは、相手にわかってもらうために「よく見ること」＝観察力「伝えることを意識して表現すること」＝表現力です。

今回の講座は、「手話」を身近に感じ、理解するきっかけになりました。